

はじめに

「3R」は環境にやさしい循環型社会形成のキーワードです。ごみとなる物を減らすReduce（発生抑制）、繰り返し使うReuse（再使用）、製品原料に使うRecycle（再生利用）、これらの文字の頭文字のRを合わせて3Rです。3Rのうちリサイクルについては、ここ20年あまり積極的に取り組まれ大きく前進しました。しかし、あと二つのRの取り組みが遅れていました。

平成25年5月、循環型社会形成推進基本計画が閣議決定されましたが、取り組むべき課題の最初の項目に「2Rの取り組みがより進む社会経済システムの構築」があげられ、今の日本ではリデュース、リユースの推進がとても重要で喫緊の課題であることが示されています。二番目の課題が、有用金属の回収や水平リサイクル等の高度なリサイクルの推進です。リサイクルが大きく前進した現在、リサイクルの課題としては、その高度化が求められるようになったのです。

10年先20年先の社会形成にとって、次代を担う子どもたちへの啓発がとても重要です。びんリユース推進全国協議会では、環境教育に携わっている先生方や、環境NGOのメンバー、リユースの事業に携わっている方々にご参加いただき、「環境教育ワークショップ」を開催し、小学校の先生方やNGOメンバーを対象とした環境教育セミナーを開催するとともに、「教師用ガイドブック」を制作しました。

多くの先生方に、このガイドブックをご活用いただき、リデュース、リユース、リサイクルの大切さを学んだ子どもたちが、環境負荷の少ない循環型社会を築いていくことを切に願っています。

びんリユース推進全国協議会代表
安井至（東京大学名誉教授）

編集メンバー

執筆編集に携わったメンバー

- ・小沢一郎（びんリユース推進全国協議会事務局長）
- ・庄司元（環境文明研究所客員研究員）
- ・鈴木善次（大阪教育大学名誉教授、元日本環境教育学会会長）
- ・永田秀和（中部リサイクル運動市民の会代表理事）
- ・中村秀次（びん再使用ネットワーク代表幹事）
- ・西村優子（Rびんプロジェクト代表）
- ・原田智代（日本環境教育学会関西支部世話人、大阪府民環境会議事務局長）
- ・山崎博文（梅花高等学校非常勤講師）
- ・幸智道（ガラスびんリサイクル促進協議会事務局長）
- ・中井八千代（容器包装の3Rを進める全国ネットワーク副運営委員長）
- ・中島光（NPO団体WorldSeed副代表理事）
- ・中村潤（株式会社フーズコンテナ、日本P箱レンタル協議会）
- ・横倉正志（一般社団法人社会資源再生機構理事長）
- ・永澤由紀子（てとて倶楽部・新潟ガラスリサイクルセンター(株)）
- ・樽井雅美（NPO法人日本ワンディッシュエイド協会副理事長、NPO法人関西ワンディッシュエイド協会理事長）
- ・山本義美（びん再使用ネットワーク事務局長）
- ・多田真知子（Rびんプロジェクト）

編集アドバイス

- ・藤村コノエ（NPO法人 環境文明 21 共同代表）